「包括的な化学物質対策の確立と推進のための取組」	・環境基準、目標値、指針値が設定されている有害物質については、その達成率 ・各種の環境調査・モニタリングの実施状況（調査物質数、地点数、媒体数） ・ＰＲＴＲ制度の対象物質の排出量及び移動量 ・化学物質審査規制法に基づくスクリーニング評価及びリスク評価の実施状況

ⅲ）環境の各分野を横断的に捉えた指標群

分類	指標
ａ）環境負荷と経済成長の分離度に係る指標	環境効率性（※１）、資源生産性（※１）(※２）
ｂ）環境と経済との統合的向上に係る指標	環境分野の市場規模、環境ビジネスの業況、グリーン購入実施率、環境報告書を作成・公表している企業の割合
ｃ）持続可能な資源利用に係る指標	再生可能資源投入割合
ｄ）環境技術や環境情報の整備状況に係る指標	環境分野の特許登録件数（※３）、環境情報に関する国民の満足度
ｅ）日本と世界の環境面での相互依存性に係る指標	消費ベース（フットプリント）の指標（※４） 資源の自給率（食料、木材、エネルギー）
ｆ）日本の環境面での国際貢献度に係る指標	○国：環境分野に関するＯＤＡ拠出額 ○都市：国際に関連した環境活動を行っている自治体数 ○企業：－ ○ＮＧＯ／ＮＰＯ：－
ｇ）持続可能な社会を支える自然資本に係る指標	森林面積・森林蓄積量（※２）、藻場・干潟面積（※２）
ｈ）持続可能な社会を支える人工資本に係る指標	○生活基盤：都市域における水と緑の面的な確保状況を示す指標（※２） ○環境負荷の少ない人工資本：再生可能エネルギーの導入量(※５）
ｉ）持続可能な社会を支える社会関係資本に係る指標	○主体の力： 【国民】体験型の環境教育・環境学習に参加した国民の割合 【地方公共団体】持続可能な地域づくりに向けた考え方や進め方に関する計画や方針が策定されている地方公共団体の割合 【事業者】ＩＳＯ14001、エコアクション21等の登録事業数 ○主体間の連携： 計画の実施に際して地域の多様な主体が対話型で参画できている地方公共団体の割合、＋ＥＳＤプロジェクトの登録数

※１　詳細については、ⅳ）を参照のこと
※２　「事象面で分けた重点分野における個別指標群」でも用いられている指標
※３　今後、グリーン・イノベーションに関するデータを整備予定
※４　消費ベースの指標例：エコロジカル・フットプリント、資源生産性（消費ベース）
※５　データの把握が可能な項目についてのみ対象とする

ⅳ）環境と社会経済の関係を端的に表す指標

指標	内容
①環境効率性を示す指標	・環境負荷と経済成長の分離の度合いを測るためのデカップリング指標 ・二酸化炭素の排出量が他の分野の状況も、何らかの形で反映されているとみることができることから、当面は、「二酸化炭素排出量÷ＧＤＰ」を使用する。 ・ただし、必ずしも総量削減を意味しないこと、各国の条件に差があることなどから、国際的には、このような指標として、生産量ベースでの比較など様々な手法が提案されていること等の留意点がある。 ・また、他の環境負荷（大気環境、化学物質など）の環境効率性に関しても補助指標として検討する。
②資源生産性を示す指標	・投入された資源をいかに効率的に使用して経済的付加価値を生み出しているかを測る指標 ・天然資源等投入量は、資源だけでなく、資源採取に伴う環境負荷や廃棄物等も表わすことができ、複数の分野に対応しうる総合性の高い指標であることから、当面は、「ＧＤＰ÷天然資源等投入量」を使用する。なお、本指標は環境負荷と経済成長の分離の度合いを測るためのデカップリング指標でもある。 ・循環基本計画において、既に数値目標が設定されており、毎年度算定が実施されている。 ・ただし、少量だが有害な物質や希少金属が埋没すること等の留意点がある。 ・また、各国の条件に差があることなどから、国際的にはこのような指標として、消費量ベースでの比較など様々な手法が提案されていること等を踏まえ、国内の消費に伴う国外における環境負荷を把握することができる消費ベース（フットプリントベース）の資源生産性に関しても補助指標として検討する。
③環境容量の占有量を示すエコロジカル・フットプリントの考え方による指標	・環境容量を示す指標 ・エコロジカル・フットプリントは、地球上の有限な土地の面積に着目して持続可能な水準の超過を訴える概念が直感的分かりやすさに優れ、「環境容量の占有量」として数値を解釈することができることから、当面は、「環境容量の占有量を示すエコロジカル・フットプリントの考え方による指標」を使用する。 ・ＷＷＦ（世界自然保護基金）の定期的なレポートなどによって国際比較を行った結果が発表されている。 ・ただし、エコロジカル・フットプリントはすべての環境問題や資源を対象としているわけではない等の留意点がある。 ・また、環境容量を直接的に示すことができる指標（例えば、地球温暖化、生物多様性、物質循環、水環境保全などの複数の分野に対応した「管理された森林面積」）を補助指標として検討する。
④環境に対する満足度を示す指標	・生活の質の環境的側面を示す指標 ・生活の質の環境的側面を示す指標として、快適性や安全性を測る指標が考えられるが、現時点では適当な指標がないことから、「環境に対する満足度を示す指標」について検討する。 ・例えば、環境基準（例：騒音）を達成している地域に住む人口などが考えられる。